関西平和美術新聞
2022年5月
第３８号
関西美術家平和会議
広報部発行
■事務局／〒530-0054
大阪市北区南森町2・2・14
TEL 080-8516-7205

# 第70回関西平和美術展へ奮って出品を

## 組織して

# 平和の壁に花一輪を

第70回関西平和美術展は新会場で開催をめざして取り組み始めています。第一回実行委員会が3月20日（日）午後2時からクレオ大阪中央で開かれ、13名が参加。委員の選出と委員長及び事務局長など事務局の分担を決めました。会の最後に、ロシアのウクライナ侵略に対して、ロシア大使館宛プーチン大統領へ抗議電報を特別決議しました。

### 新会場での第70回関西平和美術展開催にあたって

実行委員長　坪井　功次

コロナ感染はまん延防止法が解除されましたが、第7波の懸念など先行きは不透明です。ロシアのウクライナ侵略戦争に対して、世界中で反戦・平和のうねりが起き、日本でも支援と抗議活動が広がっています。

その裏で、核使用、敵基地攻撃能力をはじめとした憲法改悪が策動されています。広島と長崎を破壊した原爆を最後に終結した20世紀最大の戦争から、世界も日本も新たな出発をしたはずでした。武力と武力の先には破壊しかありません。

関西平和美術展は、再び戦争の惨禍をくり返してはならないとの思いで結成されました。「NO WAR」のうねりのなか、平和の壁を閉じる事は出来ません。堺市立文化館での開催は近郊の協力は勿論ですが、遠方と思われる方々の呼びかけと広がりが、関西の平和美術展として欠かせません。「非核宣言都市 堺」で第70回展を迎える新たなあゆみとなるように。

### 今年は必ず平美展を成功させたい

事務局長山田　泰子

大阪市立美術館は、本館の改修工事に伴い収蔵品の置き場などに使われ展覧会室は3年間使用できません。

美術館から紹介された代替館は使用料が高いところばかりでした。堺市立文化館ギャラリーも有料にすると使用料は非常に高くなるので入場無料としました。

会場の天井は今までより低くなります（2・5m）が壁面の長さは以前と変わりません。100号の作品も展示できます。北部方面からは遠いように思われますが大阪から関空紀州路快速に乗れば美術館と変わらない時間で新会場に着きます。初めて使う会場です。展示室は2階3階とあり全館借りました。新しい企画もあります。コロナ禍の中ですが文化館が開いている限り開催します。展覧会を成功させるためには出品者の皆さんのお力が必要です。ご協力をお願いします。

ユキノシタ　中村宏子

### 第70回関西平和美術展実行委員会

（実行委員　32名）

○関西美術家平和会議代表　三田耕之

○実行委員長　坪井功次

（事務局）

◇事務局長／山田◇副事務局長／自黒・松下◇会議連絡／星野◇会計／篠瀬・野村芳美◇出品ハガキ確認作業／土屋・野村・中川・松下◇広報連／山岸・川村・篠瀬◇宣伝関連／松本・自黒・浅野・佐木・川口・中田　◇渉外／山田・篠瀬◇平和運動／原水爆禁止世界大会・署名／山中◇美団連／薮内◇広報平美新聞発行／栃尾・川村・佐木・尾崎・松下◇ホームページ／篠瀬◇印刷物依頼／篠瀬・山田◇自録名簿・ラベル／星野・山口・中川・土屋・野村・松下◇会場交流会・懇親会／伊藤・山内

浅野義浩（絵画）伊藤美恵子（絵画）尾崎文子（絵画）川村芳比路（写真）黒部正廣（デザイン）佐木義輝（絵画）三田耕之（絵画）徳河汎愛（漫画）西念秋夫（陶芸）篠瀬和行（絵画）玉井質（写真）坪井功次（絵画）土屋行子（書）栃尾惇（絵画）中田進（絵画）中川由美子（絵画）野村和弘（絵画）野村芳美（絵画）星野智（絵画）前田尋（きり絵）桝家雄司（絵画）松下ふみ代（書）松本稔（絵画）松原成光（絵画）目黒郁朗（絵画）薮内敬三（絵画）山内比呂子（絵画）山岸稔（絵画）山口隆夫（絵画）山田泰子（書）山中成子（絵画）行成さや子（絵画）

2022年関西美術家平和会議新春講演会開催　2月27日ドーンセンター5階於

# 父四國五郎を語る・四國五郎が伝える戦争の記憶

## 講師　四國 光氏（四國五郎長男）

講演内容を広報部で一部抜粋してまとめました。

講師の四國光さんは「父四國五郎の人生の全体像とその広範な活動の内容を具体的に紹介したいので画像を話込みました」と《反戦詩画人四國五郎が伝える戦争の記憶》と題してプロジェクター映像と共に講演されました。

冒頭に2014年に父が亡くなり、一気に動きだした展覧会はじめ、様々なこれまでの動きをまとめた活動の紹介と、それらの作業をする中で父と一緒に走り、父の人生をあたかも追体験しているようだ、と話された。

### 「戦争を起こす人間に対して本気で怒れ」

私が小学生の時に父から聞かされていた言葉を思い出していますと前置きがあり、「戦争は一部の人間が起こし、多くの人間が不幸になる。戦争を起こす人間に対して本気で怒れ」と。それは四國五郎の人生の背骨のような価値観であったと語られました。

父は1924年生まれの戦中派で2014年に亡くなり、幼年時代は、絵描きになることしか考えた事がなかったような子どもだったことを紹介。そして戦争へと話が進み、3つの戦争体験を語られました。

**その1**、戦争と軍隊。父は1944年20才に徴兵されて、満州へ送られ関東軍兵士として旧ソ連軍と激戦。父は戦争のことを多く語らなかったが、父の残したものを読むと凄惨な戦いだったことがわかる。戦車用の地雷をもって飛び込む陸の特攻である「肉攻」。日本はこのような戦争をしていた事を忘れてはならないと思います。

**その2**、シベリア抑留。戦争が終り、21才から24才までシベリア抑留生活へ。厳寒と栄養失調と不慣れな森林伐採などの強制労働で臨死状態なったことや、上級兵士が下級兵士を虐待する等、収容所に軍隊が温存されていたことから、所内の民主化を進める壁新聞、紙芝居などの表現物で啓蒙活動を展開。この活動は父の戦後の反戦運動の原点と語られました。

シベリア抑留から帰国時に必死の覚悟で持ち帰ったものを映像にて紹介された。その一つは豆日記。収容所で何があったのか記録した。

## 講演会参加者の感想から

### 反戦の想いを

中村　宏子

光氏のやさしい語り口を聞いて、父・五郎氏の反戦の姿勢を伺い知ることができました。

今、まさにウクライナがプーチンによって進攻され、何の罪もない人々が国外に逃れている。これが戦争だ。テレビドラマのように見ていては絶対にダメだ。自分に何ができるだろう。対岸の火事ではない。今、起きている現実を受けとめて、日々平和を考えて生きていきたい。

### 「平和は祈るだけではダメだ」

松本　稔

冒頭「戦争を起こす人間に対し本気で怒れ」と子どもにいっていたことが紹介されました。講演のなかで自分が体験した、入隊のこと、シベリアでの抑留、そして原爆投下の悲惨な状況が怒りとなったと思います。特に心に残ったのはシベリアでの出来事を絵に描いたことや、日記「わが青春の記録」を書くなど、次世代へ戦争の記憶を継承していく姿です。

また峠三吉との出会いの中、絵と詩を結合した表現などで原爆詩集の発表や、朝鮮戦争下での「辻詩運動」などで反戦活動を行ったことです。「平和は祈るだけではダメだ」が画家の原点と言われたことに感銘を受けました。

### 気迫伝わる講演

篠瀬　和行

四國五郎のイメージをテレビや書籍の写真から、大柄な方と思っていました。講演の冒頭で、光さんが「父は小柄でした。」と紹介されたので意外でした。過酷なシベリヤ抑留から生還されたこと、戦後の活動など、その生き様から勝手にたくましい肉体を持った作家を想像していた。

書き続けることが生きる力に繋がり、日々の様子を単語のみで書き綴った日記は帰国後、1950年に絵と文で綴られた私家版画文集として「わが青春の記録」に再現された。

**その3**、原爆。1948年11月帰国すると広島の原爆の惨状と、弟直登の被爆死を悲しみ、弟が死の直前迄書き込んでいた日記を自分への遺言と受け止め、日記や弟を偲び描いた絵等が映し出されました。

ワンガン1991年（湾岸戦争反対）

## 反戦平和を描き、広島で生きる

戦後は、反戦平和を描き、広島で生きる事を決意。1949年被爆詩人峠三吉との運命的な出会いがあり、峠が亡くなるまで、蜜に活動を共にした。峠三吉が詩を書き、四國五郎が表紙絵等を装丁した「原爆詩集」の発行。朝鮮戦争下、言論統制の厳しい中、その抵抗運動として手書き反戦反核ポスターを街中に展開した「辻詩」運動と現存するポスター数点紹介。そして「辻詩」は「沈黙は禁」と「各自で表現できることで声をあげよう」と連帯の力を訴える市民運動の先駆けでもある事と、海外の抵抗運動の映像も紹介された。

そしてまた「平和を祈るだけではだめだ。個々人ができることを行動に」が四國五郎の表現理念であると語り、その主な行動を紹介。あらゆる権威から自由な平和美術展を訴え1955年に広島平和美術展を創設。1974年は「市民が描く原爆の絵プロジェクト」に被爆者自身が伝えたいことの表現指導に尽力。1979年に出版された絵本「おこりじぞう」の原画は被爆者の体験を継承した作品そしてこども向けであるが大人向けでもあり、おじいちゃん、おばあちゃんはもとより、戦争が好きな人にも読んでほしいと願いを込めて描いた絵本。それらの原画を映像で紹介。

その他、アメリカの大学に父の生き様と作品を紹介するサイトが出来、大学の授業の教材として、アメリカやその他の英語圏の複数の大学で活用されていることや、被爆市民の似顔絵描きボランティアを20年間継続する等、映像と共に紹介された。

生涯のテーマに描き続けた油絵「母子像」はいのちの大切さと平和を訴え、戦争の抑圧と侵略や非人間性を描き続け、「ヒロシマの母子」「黒い雨」「ワンガン」（湾岸戦争反対）等々300枚近い作品はすべて平和のメッセージであり、メッセージを伝える「手段」であるので、作品を売らなかった。

## 戦争の記憶を次世代へ

生前に語っていた父の思い「戦争の記憶をどうか次の世代へ。お母さんだったら子どもへ。子どもは孫へ伝えていってもらいたい。」に寄り添って光氏は「表現物には心を動かす力がある。表現物を通して戦争を知り、戦争に対する嫌悪感や拒否感を自分の中に育て、そして次世代の中に育てること」や嫌悪感や拒否感の認識の蓄積こそが戦争に対する本当の抑止力で、武器を買いあさることや核兵器を持つことでなく、表現物から戦争を学ぶことにより実際の戦争に近づかない。そのことが大事だと思う」と述べられて、講演を終られた。

近年、光さんが未発表の多くの詩を発見されたことから、詩画人としても四國五郎を知ることが出来ました。

シベリヤでの日記は物資がないため単語のみで書かれ、靴底に忍ばせて帰国し、復元した反戦の執念。光さんの講演もスクリーンで写して頂いた四國五郎の作品も「戦争はダメ！」と気迫伝わりました。

## 自分に問うて

A子

とても楽しみに来ました。石橋で（阪大）で見て以来今日の日を。戦争というすごい経験をやさしい色で表現され（おこりじぞう）絵そして詩までも。これからの作品にむかっていく、自分に問うことを糧に。又、詩にもお会いしたいと思いました。光さんのお話にふれて本当によかった。

（広報部調べ）大阪府立図書館で貸出可能な四國五郎著作書関連＊画文集「わが青春の記録」上下2巻三人社＊「絵本　おこりじぞう」金の星社＊「ヒロクンとエンコウさん」汐文社＊「ヒロシマを伝える・詩画人四國五郎と原爆の表現者たち」著者永田浩三WAVE出版　等

# つなごう 平和な未来へ

返信ハガキの一言メッセージから抜粋

**田原　智香子**
ウクライナへのロシアの侵略　非核三原則の見直しなど不穏な世の中。子どもたちが健やかに育ち、明るい世の中になるように微力ながら出来る事を尽くそう。

**清水　利子**
ロシアのウクライナ侵略で何の罪もない子どもたちが殺され、いかなる戦争も許すことができません。平和を願う美術展を成功させましょう。

**川島　恵美子**
高齢になり足が思うようなりません。展覧会には出品します。

**奥山　慎智乃**
出品については、他の方達とも参加させていただく方向で考えています。

**北　啓永**
実行委員は出来ませんが出来ることあれば、お手伝いさせていただきます。私は豊中の「展・自由空間」にしか出品した事がありません。その展示会に出品した作品を出してもよいでしょうか？（歓迎します）

**瀬戸口　真記**
いつも大変な雑務ありがとうございます。実行委員の皆様のおかげで平和美術展が続いていくのだと思います。感謝しています。

**堂上　哲也**
実行委員に参加出来ず申し訳なく思います。せめて愚作ですが出品の方で協力させて頂きます。

**福田　信子**
今年の平和美術展は久しぶりの参加なので楽しみにしております。

**薬谷　礼子**
お世話になりっぱなしで申し訳ないと思いますが、夫の病気等で実行委員会に参加する時間が取れそうにありません。ごめんなさい。

**大木　稔**
私は高齢で実行委員はできません。彫刻の部門を設ける以上彫刻部門の実行委員は必要です。

**久保　公代**
平和をテーマにした美術展茶臼山画廊・吉田良男さんの記事、興味深く読ませていただきました。

**元橋　明司**
ウクライナの人々は家族団らんも音楽や絵を描くこともできない日常を想うと胸が痛みます。

**遠田　悦子**
天王寺から近いとわかり、今は出展したいと思っています。展示、受付などお手伝いできることがあればさせてください。

**矢野　浩**
出品につきましては何とか頑張りたいと思います。

**渡辺　和恵**
プーチンは侵略やめろの集会デモに参加した。核使用を公然という政治勢力に負けない力を作りたいね。

**岡村　瑠美子**
２０１９年から体調を崩して絵画制作もゆっくりしたペースです。今回、平和展が懐かしい堺市で開かれると知り、出品することにしました。お世話かけます。

**馬場　喜子**
出品できるよう今から頑張って制作にとりかかろう。

**土佐　いく子**
今年夏は是非美術展、開催したいですね。

**瀬藤　みや乃**
２年ぶりの美術展、皆で盛り上げたいです。地域の役割がいろいろあり、実行委委員会参加は無理ですが絵の展示等協力したいです。

**星野　智**
ロシアのウクライナ侵攻はゆるせません。「アーティストもできることを」と思います。平美展の成功もそのひとつです。

**土屋　行子**
今年はゆるがずやり切りたいと思います。コロナも終息して欲しいです。それが一番の願いです。でもその中でやり方を考えて成功させたいと思います。

**徳河　汎愛**
今年から復活しますが、できる範囲で少しずつ参加させていただきます。

**松本　享子**
核兵器が無数にある21世紀。まして保有国でその恐ろしさを知る。ロシアが戦争を仕掛けるとは…。全ての人の営みは平和であってこそのものです。日本の平和憲法がますます大切なものなってきます。

**宮脇　達**
体調が悪く実行委員にはなれませんが、作品展には何とか頑張って出展したいと思います。

関西平和美術展実行委員会名でロシア大使館宛プーチン大統領へ抗議した電報文です。

**「世界の平和と正義によりウクライナからのロシア軍の撤退を求めます」**

## 平美ホームページ 担当者日誌 21

この日誌が掲載される頃には、ウクライナへの侵略が停戦されていることを、なににもまして願っている。

病んでいるとしか思えないプーチン・ロシア大統領の言動には、各国の核兵器も抑止力にならなかった。

温暖化で、アフリカの独立峰としては最も高いとされるキリマンジャロ（５８９５ｍ）の雪が、あと十数年でなくなるという。戦争の対極のみに平和があるのではないと思うこの頃です。

ホームページのアクセス数が９９００になりました。１万の節目に平和のしっぽでも掲載したい。

あなたの思いや個展等の情報などもご投稿下さい。

（ｓｋ）

# 戦争に思う

## ウクライナ戦争

山岸　稔

突然ロシアが一方的にウクライナへ武力侵略し、ウクライナ軍も応戦し国土は瓦礫・荒廃となり、罪のない多数の住民が死傷したり難民となって国外に逃げている。プーチンはウクライナの〝NATO加盟が許せない〟等々の理由を述べているが、多くの国の人々が侵略を止めと訴え、国連総長も「国連憲章違反」であり人道上許せないと即時停戦を呼びかけている。戦争が起きる原因はそれなりにいろいろとあるのだろうが、犠牲者は一般住民である。

私も太平洋戦争の末期1945年3月13日の大阪大空襲の時、B29爆撃機が無数の焼夷弾を落とす中を逃げ惑い一命を得たが、亡くなったり家財一切を消失した人も多くいた。人間社会が犯す最大で最悪の悲劇は戦争だ。戦争は自然災害ではない。人間がなくすことができるのだ。今こそ平和美術展で平和の大切さ、戦争の愚かさを訴えたいと思う。

# 私のひとこと

## 私の八月十五日

松原　成光

北京オリンピック閉会後、ついにロシア軍によるウクライナ侵攻で、殺し合いと破滅と悲劇と絶望がまた始まった。昔、アジア各国でも今ロシアがやってる事を日本軍も強行した悪い歴史がある。昭和16年、国民、学校（初期）の1年生となった校舎には、満州、朝鮮、台湾、樺太千島などを日本領土と表する赤ベタにした世界地図があちこちに貼ってあった。実家は、父母姉兄弟の10人で貧しい百姓の働き者。3年生になった私は肋膜炎（小児結核）を患い2年余りの長期欠席者となって、たまに姉に連れられ登校したが、疎開生が段々に多くなり女先生にもイジメられいつか私の机イスはなくなった。赤十字婦だった長姉は19歳で南方の島で死んだ。昭和20年8月15日、その姉の初盆で母と姉弟6人でお供えの花と芋を手に墓参りをしたが、消防団の父と予科練兵の兄は留守中で、ラジオもなく新聞も休刊で、その日、玉音放送があるなんて誰も知らなかった。墓参りの後『今日も夕立ちはこんなー』とポツンといった母の声が今も耳に残る。後日、夏休み中の集団登校日があり、その道中で団長（6年生）が『玉音放送聞いたか、日本負けたんや』と教えてくれたが何のことやら理解できなかった。耐えに耐え、忍びに忍びやっと生きてきた国民にまだ「耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍び」と言った人は「アッそう、アッそう」と帽子を振りながら全国巡行とかを続けていた。

大東亜戦争はいつか太平洋戦争となり8月15日の敗戦の日は終戦記念日に。

平成令和になっても兄は帰らない。幾百万柱の御精霊に合掌

ただ平和を願うのみです。

## 平和と川柳

尾崎　文子

暁を抱いて闇にある蕾

この川柳は大阪城内の衛戍監獄の跡地にある鶴彬の書銘石に書かれているものです。その他、「手と足をもいだ丸太にしてかへし」「万歳とあげて行った手を大陸へおいてきた」など有名です。そして大阪人として忘れていけないのは与謝野晶子の「ああ弟よ、君をなく、君死にたまふことなかれ」の詩です。

今、ロシアとウクライナの間の争いで多くの命が失われています。反戦反核平和詩歌文集より

（文子の句）

北斎の大波つなみ

まだ　続き

ルノアールフランス革命

見ましたか

叫んでいるムンクの声が

今もする

耳切って聞きたくないと

ゴッホの絵

ロダン像今も考え

こんだまま

戦争はだめとゲルニカ

言い続け

モナリザの静かな笑顔

ほっとする

これからも文化を通じて平和を語ろうと思います。

## わたしの風景画

本松　進一

私が平美展に出展したのは12回展でした。それまで職場の先輩高藤義雄さんたちが平和展に出していましたので私も出すことにしたのです。最初は労働者の絵などを描いていましたが、私がそれまで強くひかれた絵はロシア「移動派」の画家レービン、シーシキン、レビタンなどで中でも風景画は私が「こういう絵を描きたい」と思った最も尊敬する画家でした。現在日本各地の風景画を続けていますが。原点はこの辺にあるように思います。

職場を定年になったころ京都の「新美展」を見た画商が、家を訪れてきて、「こういう風景画を描く人はなかなかいないので全国の百貨店で個展をやらないか」と誘われ、一緒にやることになりました。

平美展はいろいろな人たちがいろいろな作風の作品を持ち寄って、他の公募展には見られない活気がみなぎっています。

現在私は、入退院を繰り返していますが、絵が描けなくなるまで平美展に出品し続けるつもりです。

# 四國五郎の画業と私たちのこれから

## その7　目黒　郁朗

月刊誌・「詩人会議」2021年10月号に掲載された 四國五郎 戦争詩未発表作品（上）で十一編の詩の後に、長男・光氏の「解題」が載せられている。

講演会では詩については多くを語られる時間がなかった。しかし永田浩三著・「ヒロシマを伝える」に峠三吉たちとの詩を通しての深い交流があったと紹介されている旨、光氏からお話しされた。

承諾を得て、その冒頭と末尾を そのままここに示したい。光氏からのメールには詩集の発刊は、「しばらくお待ち願いたい」とあった。

反戦詩画人・四國五郎・

未完の『戦争詩』四國光父四國五郎が逝った後、アトリエを整理していると、スケッチブックや原稿がうず高く積まれた小山の中から、一冊の草稿ノートが見つかった。表紙には、父にしては珍しく、何かを訴えるような野太く荒々しい文字で一言『戦争詩』とあった。「やるぞ」という父の息遣いが聞こえてくるような文字。

ノートには、自分が体験した「戦争」、すなわち、広島の第5師団輜重兵隊に入営し満州での11カ月が、あたかもドキュメンタリーのように、50編を超える詩だけで綴られていた。

◇この後、１２００字近くの文が続いて

約60年間、父のアトリエで眠り続けた詩たちが、長い眠りから目覚め、「戦争の記憶」を引っ提げやっと復活した。二度とあの誤った道を歩まぬために、父の表現活動の原点のようなこの「未完の詩集」を多くの方に「活用して」頂ければと思う。

と結ばれている。今年ロシアからのウクライナ侵略で多大な人命が失われ、国土の破壊がなされている。この回の短い紹介だが、四國五郎と光氏の強い思いを受け止めたい。そして画業と連関しての私たちの感受は、これから先続けられる。

# 今こそ核兵器禁止条約批准を！

## 山中　成子

ロシアのウクライナへの侵略と日々明らかになる残虐行為に対し、世界中で非難の声があがり、ロシア国内でさえ弾圧の中、反戦デモが続いています。国連は二回の非難決議を１４０以上の国連加盟国の賛成で採択しました。

平美では侵略反対の声明を出し、核兵器禁止条約批准を政府に迫る署名活動に「ウクライナに平和を」などの垂れ幕を作って参加しています。しかし日本ではこの機に乗じ米国との核共有、憲法を改悪する危険な動きが強まっています。

戦争反対の世界の声を更に大きくし、国際法違反のロシアを撤退させましょう。

（署名活動は毎月6日又は9日の12時から13時。上六です。ぜひ参加ください。）

**編集後記**

4月に実行委員20数名がJR堺市駅から新会場迄下見に行きました。現地では学術員の方から展示室等々案内頂き、平美展準備のイメージが出来つつです。出品申込みお待ちしています。

# お知らせ

◆出品申込みは6月30日（木）締切。

平美展への出品は事前申込み制です。出品申込みハガキに必要事項を記載し、投函と同時に出品料を郵便振込でお願いします。

（出品規定を参照下さい）

◆今年の搬入及び展示は同日に行います。

7月26日（火）搬入は12時～13時30分。引き続き展示作業は13時30分～の予定です。なお搬出は会期最終日7月31日（日）16時～18時です。

◆新型コロナ感染対策は美術館の対応に準じます。

**２０２２年　第70回関西平和美術展**

**堺市立文化館ギャラリー**

**搬入展示　2022年7月26日（火）**

**会　　期　2022年7月27日（水）～31日（日）**

**（最終日は搬出含む）**